

種名	カ　ラ　ス　ア　ゲ　ハ Papilio bianor 													
分類	アゲハチョウ科													
形態	前翅長 45～80mm、アゲハチョウ（春型）より大型、翅表が青緑色に輝く。裏面は地色が黒色、後翅に赤色の斑紋がある。地域によっては斑紋の変異が大きく、沖縄諸島産、八重山諸島産をそれぞれ別種とする説もある。ミヤマカラスアゲハとよく似ており、混棲地では間違えやすい。主な区別点は、後翅裏面に白帯がない。													
分布	北海道、本州（伊豆諸島を含む）、四国、九州、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、八重山諸島。													
出現期	普通年2回の発生。第1回目の春型は、南西諸島を除いて4月下旬より現れる。2回目に羽化する夏型は、7月から見られる。寒冷地では年1回の発生に終わることがあり、逆に温暖な地域では3回目が羽化する。南西諸島では年4～5回の発生になる。越冬態は蛹。													
生態	飛び方は素早く、♂は溪流沿い・林縁に蝶道をつくって、湿地で吸水する。また、花にもよく訪れ、ツツジ類、クサギ、ハイビスカスなどで吸蜜する。♀は林縁にあるやや日陰の食樹の葉裏に、1個ずつ産卵する。													
食樹	ミカン科のキハダ、コクサギ、カラスザンショウ、ハマセンダン（暖地）													
幼虫 （幼生期）	4齢までは地色が青緑色、白色斜帯がある。終齢（5齢）は体長 50mm 以上。地色が緑色に変わり、側面に黄色の斜帯がある。次種によく似ているが、本種のほうが地色がやや濃く、胸節にある黄色帯が、背面までのびない。たいてい葉裏に静止する。													
出現時期	(月)	—	—	—	—	5	6	7	8	—	—	—	—	
その他														
参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ														